



令和5年度 学校だより 3月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



「令和」も「昭和」も変わらないもの

校長 小林 雅弘

ついに本校にも大谷グローブが！

2月上旬に本校にも大谷翔平選手から寄附されたグローブが届きました。高学年右利き用と左利き用、低学年右利き用の計3つのグローブです。



2月5日の朝会…。いつもはテレビ放送で行いますが、この日は全学年体育館に集ってもらいました。「今日皆さんに集ってもらったのは、この人を紹介したいからです。」自作した等身大の大谷選手パネルを見せると子どもたちは大喜び。「グローブだ！グローブだ！」「この大谷グローブはまだ誰も手を通していません。最初に通すのは、皆さんの代表のお友達です。」地域で野球を習っている6年生と3年生の児童にステージ前を出てきてもらいキャッチボールを披露してもらいました。「いいなあ。私もやってみたい。」興奮気味の子もたち。その後、順番にクラスに回すこと、キャッチボールをするときには決められた場所で行うことなどを伝え、朝会を終えました。

3年生社会「かわる道具とくらし」から

3年生は現在社会科で、地域で使われている昔の道具に関心を持ち、そこから昔の暮らしについて調べる学習を行っています。

保土ヶ谷町自治会の会長で、本校の学校運営協議会の委員でもある内藤 好夫さんないとう よしおにご協力をいただき、たくさんたくさんの昔の遊び道具を用意していただきました。メンコ、けん玉、おはじき、だるま落とし、こま……。内藤さんにやり方などを教えてもらいながら、子どもたちは夢中になって遊んでいました。



昭和10年代の丸メンコ



メンコに夢中の3年生たち

私が小学生だった頃の思い出

大谷グローブに初めて手を通した子どもの表情や、メンコやこまに夢中になっている3年生の様子を見ているうちに、四十年以上前、自分が小学生だった頃の事を思い出してしまいました。まだテレビゲームすらなかった当時、私は仲間とこま回しに夢中になっていました。写真のような「大山こま」が特に流行っていて、駄菓子屋などでたくさん売っていました。



大山こま

こまにいろいろな色のビニールテープを巻き、それぞれ自分のお気に入りにカスタムしました。「赤いテープと青いテープを十字に貼ると回ったときに紫色になる」混色については遊びから学びました。こまを長く回すには、どうしたらよいか考え、「芯にベアリング(小さな鉄の玉)を入れると摩擦が少なくなる」ことを知りました。ベアリングは自転車の車軸に入っています。仲間と近所の鉄くずや(今の金属スクラップ業者)のところをお願いに行き、自分たちで解体して取り出し、それをこまの芯の中心に埋め込みました。「ひもで回っているこまをはたくと長く回る」ことから、回しひもの端にビニール平テープをたくさん付け、それをはたきのようにフサフサにしてどれだけ長く回すことができるかを友達と競い合いました。よりよくするため工夫をしたり、仲間と協力して問題を解決したりすることは、今振り返ると、友達と関わり合いながら、遊びの中で身に付けていったように思います。

「令和」も「昭和」も

私が幼少期を過ごした昭和から、今の令和まで長い時間差があります。でも、初めてグローブに手を通したときの喜びや仲間とこまなどで遊んでいるときの子どもの楽しそうな表情は令和も昭和もなく、きっと変わらないのだと思います。今後も人とのつながりや関わり合いのなかで共に育っていくそんな学校づくりを目指していきたいと思っています。